

自己改革取組宣言



J Aむなかたは、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として自己改革に取り組んでいます。

協同組合とは、組合員一人ひとりが力をあわせ、みんなの願いを叶えていく組織です。

J Aは、農業者が組織する協同組合です。農業者の所得向上や地域農業の振興を目的に、農畜産物の販売や信用・共済・購買などの様々な事業を総合的に結びつけ、積極的かつ主体的な地域づくりに取り組んでいます。

農業者以外の方も、地域農業の発展や地域づくり、食を通じた地域農業の応援団として、准組合員に加入いただいています。

いわば、農業者と地域農業の応援団が一緒になり、J Aの総合事業を通じて地域の農業と暮らし、みんなの願いをかなえる取り組みを支え合っています。

J Aむなかたは、これからも協同組合の原点に立ち、組合員のみなさんとの対話を大切にしながら、総合事業の強みを活かして「地域から愛され信頼されるJ A」であり続けます。

以上、宣言します。

令和元年 6月 27日

J Aむなかた 第42回通常総代会

自己改革の取り組み（JAむなかた）

平成31年3月現在

1. 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」にかかる取り組み

- **高品質米生産支援奨励制度：H28.2～** 【対象農家 212 経営体 支出額 1,297 万円】
前年度に引き続き土壌改良資材を施用して高品質米生産に取り組む農業者に対して、1 俵あたり 500 円（1 反あたり 4,000 円上限）を奨励金として支給しました。
- **炭酸ガスハダニ殺虫システム処理の実施：H28 年度～**【処理本数 27 万本 面積換算 4.5ha】
いちご収量減少の大きな要因の一つであるハダニを殺虫するシステムを平成 28 年度に導入し、引き続き「あまおう」の品質と収量向上に取り組みました。
- **パッケージセンターの拡張と設備投資：H29.8 施設増設** 【設置・増設費用 980 万円】
いちごに引き続き、ミニトマト・イチジクのパッケージングに取り組む選果の手間を省き、栽培管理に集中することによる品質や収量及び所得の向上を目指しました。
- **雇用ヘルパー派遣（無料職業紹介所）** 【紹介ヘルパー数 205 名】
厚生労働省の認可を受け、（一財）むなかた地域農業活性化機構と連携して農作業ヘルパーを募集し、農繁期を中心に雇用ヘルパーを紹介しました。
- **農産物直売所「ほたるの里」運営と店舗拡張：H30.3**
2 年前に運営を承継した農産物直売所「ほたるの里」を、昨年3月に拡張及びリニューアルオープンし、商品カアップと品揃え充実を図り、地元農産物の買取り販売にも努めました。
- **農業生産資材のコスト削減**
県域で集約可能な肥料及び農薬を選定して仕入ロットを拡大することで、生産資材のコスト削減（くみあい48号・くみあいNK2号・ベスト化成444等）を図りました。また、部会等より以前から強い要望があった「鶏ふんペレット」と「牛ふん堆肥」の大幅値下げに取り組みました。
- **新たな付加価値を創造する多様な販売チャネル** 【ふるさと納税農産物販売高 9,989 万円】
ふるさと納税を活用したブランド「あまおう」「姫神」や旬の農産物お任せセットに取り組み、全国に向けてむなかた産農産物のPRに貢献しました。



肥料価格の推移



2. 営農指導事業の主な取り組みと営農指導事業に要する経費の総額

- (1) 平成 29～33 年度農業振興計画にもとづき、生産振興を図ります。
- (2) 農家個々の経営に即した農業経営管理支援と生産販売指導に取り組めます。
- (3) マーケットインにもとづく生産と販売強化に取り組めます。

また、平成 30 年度の営農指導事業にかかる経費合計は、67,354 千円となっています。

【 営農振興部 】

● カントリーエレベーターと園芸施設の再編

津屋崎・光岡共同乾燥施設統合の説明会を各地区で行い、津屋崎地区ではアンケート調査を実施し、光岡での新設に向けて進捗管理を徹底しました。また、パッケージセンター集出荷貯蔵施設の建設に関して、臨時総代会（H31.2）での承認を受け、着実な進捗管理に取り組みます。

● 農業用廃棄物回収料金の一部助成

本年度、回収料金の大幅値上げと夏場の台風・豪雨の影響での農家生産経費の増加に伴い、本年度の廃プラ回収料金について、一部助成(10円/kg)を行いました。【廃プラ助成金 543千円】

● 商品力のあるコメ作りへの「夢一献」栽培の取り組み：H28年度～

地元酒蔵と連携し、農業経営課が栽培した酒米「夢一献」を100%使ったお酒造り（特別純米酒「ゆめ宗像」）に取り組みました。【栽培面積 73アール】

【 生活経済部 】

● 大型特殊免許（農耕用）取得講習会（H31.1実施）

大馬力化・ハイスピード化・大型化により、一定基準を超えた農耕車が公道を走行する際は特殊免許が必要となるため、免許取得支援を目的に講習会を福岡県農業大学にて実施しました。

● 農業機械の事前整備

トラクター・コンバイン・田植え機などの事前整備を行い、農作業中に発生しやすい故障の未然防止や農業機械修理費用負担の軽減を図りました。

● 食育活動を通じた仲間づくりとアグレス活動活性化への取り組み

親子みそづくり教室・親子料理教室などの食育活動、アグレス学習会・アグレス健康まつりなどを実施し、地域の活性化に取り組みました。

● 小型農機具のレンタルによる支援

新規就農者やいちご部会等から貸出の要望が多い小型農機具（主にハウス内で使用する小型うね成形機）のレンタルを開始し、農機コスト軽減に取り組みました。【管理作業機2台】

● 新規就農者へ農業機械操作の研修

農業経営課と連携して、トラクターや草刈機等の機械操作研修や農作業を実施し、機械操作の技術向上に取り組みました。

【 総合企画室・監査室 】

● 協同組合理念を踏まえた1支店1協同活動の展開

組合員・地域住民の声を聴き、進んで参画することができる協同活動を展開しています。また、農業協同組合にしかできない協同活動として、小学校や地域と一緒に“食農・食育活動”を実施しています。

【 金融部 】

●金融負担軽減に資する支援： H28.4.1～H31.3.31 現在

農業者の規模拡大や設備投資を支援するために、新規の農業資金借入にかかる負担を利子補給制度、保証料助成制度により軽減できるよう取り組んでいます。

- ① JAバンク利子補給制度 100万円以上の借入を対象に1.0%の利子補給（3年間）
【取扱実績 90件 28,648万円】
- ② JAむなかた利子補給制度 上記①の借入3年経過後、2年間の1.0%利子補給
【取扱実績 74件 25,580万円】
- ③ JAバンク保証料助成制度 500万円以上の基金協会保証付き借入を対象に一括前払い保証料を助成（H30.4からは金額の制限無し）
【取扱実績 40件 15,731万円】

●農業振興、地域の活性化に資する助成

JAバンク『支援事業助成金』、共済連『地域・農業活性化積立金』を農業振興や介護事業等に活用しました。

土壌改良資材奨励金	約257万円	介護予防機能訓練機器等購入	約39万円
農産物のパッケージ機器導入	約454万円	自動硬貨機・クレジットカード機器設置	約329万円
ハダニ防除殺虫システム設置	約154万円	年金友の会・少年スポーツ	約161万円

【 総務部 】

●日本農業検定資格の取得：H28年度～ 【12名取得】

営農指導力の向上と農業経営サポートに対する取り組みを強化しています。

●支店別総代懇談会の実施：H29年度～

組合員の意思反映手段構築を目的に、最も身近な「支店」において懇談会を実施しています。

●パッケージセンター、カントリー建設に向けての着実な進捗管理

パッケージセンター建設委員会および、カントリー建設プロジェクトをH31.4に設置予定です。

●経営の健全性向上に向けた事業管理費削減への取り組み

機構改革・事務効率化を図り、人件費を含めた管理費削減への取り組みを強化しています。

●公認会計士監査義務化に向けた内部統制整備

経済事業等重要事項マニュアルを制定し、実務における検証と修正に取り組んでいます。

●「食」「農」「協同活動」にかかる共感者を増やす広報活動の展開

新聞・テレビ・ラジオ・情報誌などへ、総合事業や「食」と「農」の魅力を伝える情報発信に取り組んでいます。また、新たな広報媒体として公式LINEアカウントを開設し、地域のJA利用者に対して総合的な情報配信を開始しました。